

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 今年度の結果

今年度の「全国学力・学習状況調査」は、小学校では国語と算数と理科、中学校では国語と数学と理科について調査が行われた。

本市の状況としては、小学校国語において、県の平均正答率を0.7ポイント上回った。小学校国語の全国との差は-0.4ポイント、小学校算数の全国との差は-1.9ポイント、県との差は-0.9ポイント、小学校理科の全国との差は-1.1ポイント、県との差は-0.4ポイントであった。

中学校国語の全国との差は-2.7ポイント、県との差は-1.9ポイント、中学校数学の全国との差は-4.3ポイント、県との差は-4.8ポイント、中学校理科の全国との差は-3.4ポイント、県との差は-2.2ポイントであった。

2 教科における経年比較

【小学校 平均正答率】

(単位:%)

教科	市・県・国	H30年度	市と県・全国との平均正答率の差	教科	市・県・国	令和元年度	市と県・全国との平均正答率の差	令和3年度	市と県・全国との平均正答率の差	令和4年度	市と県・全国との平均正答率の差
国語A	亀山市	68.2		国語	亀山市	65.0		66.0		65.2	
	三重県	70.1	-1.9		三重県	64.0	1.0	64.1	1.9	64.5	0.7
	全国	70.7	-2.5		全国	63.8	1.2	64.7	1.3	65.6	-0.4
国語B	亀山市	49.6									
	三重県	53.6	-4.0								
	全国	54.7	-5.1								
算数A	亀山市	60.3		算数	亀山市	66.0		68.0		61.3	
	三重県	62.8	-2.5		三重県	67.0	-1.0	69.3	-1.3	62.2	-0.9
	全国	63.5	-3.2		全国	66.6	-0.6	70.2	-2.2	63.2	-1.9
算数B	亀山市	46.9									
	三重県	50.1	-3.2								
	全国	51.5	-4.6								
理科	亀山市	56.8		理科	亀山市					62.2	
	三重県	58.8	-2.0		三重県					62.6	-0.4
	全国	60.3	-3.5		全国					63.3	-1.1

小学校における領域別正答率の県平均との比較

・上回った領域は 13 領域中、6 領域。2 領域で同値

国語 「言葉の特徴や使い方に関する事項」

市：68.7% 県：68.7% 差： 0ポイント

「我が国の言語文化に関する事項」

市：80.3% 県：79.6% 差：+0.7ポイント

「書くこと」 市：51.7% 県：46.6% 差：+5.1ポイント

「読むこと」 市：65.3% 県：64.7% 差：+0.6ポイント

算数 「図形」 市：62.8% 県：62.8% 差： 0ポイント

「データの活用」市：68.2% 県：66.9% 差：+1.3ポイント

理科 「「粒子」を柱とする領域」

市：62.7% 県：59.1% 差：+3.6ポイント

「「地球」を柱とする領域」

市：63.4% 県：63.2% 差：+0.2ポイント

・下回った領域

国語 「話すこと・聞くこと」

市：62.1% 県：64.2% 差：-2.1ポイント

算数 「数と計算」 市：67.9% 県：68.8% 差：-0.9ポイント

「変化と関係」 市：48.6% 県：51.0% 差：-2.4ポイント

理科 「「エネルギー」を柱とする領域」

市：50.6% 県：51.1% 差：-0.5ポイント

「「生命」を柱とする領域」

市：71.3% 県：74.6% 差：-3.3ポイント

・無解答率

国語 市：3.7% 県：5.1% 差：-1.4ポイント

算数 市：2.4% 県：3.2% 差：-0.8ポイント

理科 市：2.9% 県：3.4% 差：-0.5ポイント

【中学校 平均正答率】

(単位：％)

教科	市・県・国	H30年度	市と県・全国との平均正答率の差	教科	市・県・国	令和元年度	市と県・全国との平均正答率の差	令和3年度	市と県・全国との平均正答率の差	令和4年度	市と県・全国との平均正答率の差
国語A	亀山市	73.6		国語	亀山市	70.0		59.0		66.3	
	三重県	75.3	-1.7		三重県	72.0	-2.0	63.0	-4.0	68.2	-1.9
	全国	76.1	-2.5		全国	72.8	-2.8	64.6	-5.6	69.0	-2.7
国語B	亀山市	59.7			亀山市	58.0		54.0		47.1	
	三重県	59.7	0.0		三重県	60.0	-2.0	57.7	-3.7	51.9	-4.8
	全国	61.2	-1.5		全国	59.8	-1.8	57.2	-3.2	51.4	-4.3
数学A	亀山市	60.0		数学	亀山市	55.0				45.9	
	三重県	66.6	-6.6		三重県	56.0	-1.0			48.1	-2.2
	全国	66.1	-6.1		全国	56.0	-1.0			49.3	-3.4
数学B	亀山市	41.4			亀山市	55.0					
	三重県	45.7	-4.3		三重県	56.0	-1.0				
	全国	46.9	-5.5		全国	56.0	-1.0				
理科	亀山市	63.7		理科	亀山市						
	三重県	66.0	-2.3		三重県						
	全国	66.1	-2.4		全国						
				英語	亀山市	55.0					
					三重県	56.0	-1.0				
					全国	56.0	-1.0				

中学校における領域別正答率の県平均との比較

・下回った領域（上回った領域はなし）

国語 「言葉の特徴や使い方に関する事項」

市：70.6％ 県：71.2％ 差：-0.6ポイント

「情報の扱い方に関する事項」

市：43.6％ 県：46.5％ 差：-2.9ポイント

「我が国の言語文化に関する事項」

市：66.8％ 県：70.0％ 差：-3.2ポイント

「話すこと・聞くこと」

市：58.4％ 県：62.3％ 差：-3.9ポイント

「書くこと」

市：43.6％ 県：46.5％ 差：-2.9ポイント

「読むこと」

市：64.3％ 県：67.0％ 差：-2.7ポイント

数学 「数と式」

市：54.5％ 県：58.5％ 差：-4.0ポイント

「図形」

市：39.0％ 県：43.2％ 差：-4.2ポイント

「関数」

市：35.2％ 県：43.5％ 差：-8.3ポイント

「データの活用」

市：54.5％ 県：58.3％ 差：-3.8ポイント

理科 「「エネルギー」を柱とする領域」

市：38.3％ 県：40.6％ 差：-2.3ポイント

「粒子」を柱とする領域」

市：47.7% 県：49.8% 差：-2.1ポイント

「生命」を柱とする領域」

市：53.5% 県：56.3% 差：-2.8ポイント

「地球」を柱とする領域」

市：41.5% 県：43.5% 差：-2.0ポイント

・無解答率

国語 市：4.8% 県：3.9% 差：+0.9ポイント

数学 市：11.7% 県：9.8% 差：+1.9ポイント

理科 市：4.2% 県：3.3% 差：+0.9ポイント

3 質問紙に見られる特徴

【小学校 児童質問紙】

○令和3年度と比べ、肯定的な回答の割合が5ポイント以上増加したものは、以下の項目である。
(単位：%)

質問事項		令和 3年度	令和 4年度	令和3年度と 令和4年度の差
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	市	77.5	82.7	5.2
	県	80.3	80.7	0.4
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	市	83.4	89.6	6.2
	県	85.0	87.9	2.9
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）【10分以上読書している児童】	市	59.2	65.1	5.9
	県	58.6	56.8	-1.8
5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか【週1回以上利用した児童】	市	36.4	89.2	52.8
	県	43.3	87.5	44.2

- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」児童の割合は増加し、県平均を上回っている。
- ・「平日10分以上読書をしている」児童の割合は、県平均は令和3年度より減少したのに対して亀山市は令和3年度より5.9ポイント増加した。県平均より8.3ポイント上回っている。
- ・「PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上利用した」児童の割合は令和3年度に比べて52.8ポイント増加した。ICT機器の授業での利活用が進んでいる。

○令和3年度と比べ、肯定的な回答の割合が5ポイント以上減少したものは、以下の項目である。
(単位：%)

質問事項		令和 3年度	令和 4年度	令和3年度と 令和4年度の差
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	市	73.0	67.7	-5.3
	県	72.8	69.5	-3.3

今住んでいる地域の行事に参加していますか	市	74.3	65.1	-9.2
	県	65.7	58.3	-7.4
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか【1時間以内の児童】	市	24.3	19.0	-5.3
	県	20.9	20.0	-0.9
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	市	49.0	43.7	-5.3
	県	50.7	50.2	-0.5
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	市	78.5	70.8	-7.7
	県	70.0	68.8	-1.2
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	市	85.4	80.1	-5.3
	県	80.4	77.5	-2.9
算数の勉強は好きですか	市	71.4	61.2	-10.2
	県	69.9	63.2	-6.7
算数の授業の内容はよく分かりますか	市	89.1	81.4	-7.7
	県	87.0	82.3	-4.7
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	市	75.6	67.1	-8.5
	県	74.5	69.8	-4.7
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	市	86.7	80.9	-5.8
	県	83.9	81.0	-2.9

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「1日にゲームをする時間が1時間以内である」児童の割合は減少し、県平均を下回っている。
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」「学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」児童の割合が減少している。
- ・「算数」に関する質問では、肯定的な回答をする児童の割合が軒並み下がっており、県平均を下回っている。

【中学校 生徒質問紙】

○令和3年度と比べ、肯定的な回答の割合が5ポイント以上増加したものは、以下の項目である。

(単位：%)

質問事項		令和3年度	令和4年度	令和3年度と令和4年度の差
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか【1時間以内の生徒】	市	11.2	21.6	10.4
	県	13.8	25.0	11.2
1. 2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか【週1回以上利用した生徒】	市	16.0	92.2	76.2
	県	39.2	90.6	51.4
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	市	59.2	65.4	6.2
	県	61.4	64.5	3.1

- ・「１日にゲームをする時間が１時間以内である」生徒の割合は増加している。
- ・「ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を週１回以上利用した」生徒の割合は令和３年度に比べて７６．２ポイント増加した。ＩＣＴ機器の授業での利活用が進んでいる。

○令和３年度と比べ、肯定的な回答の割合が５ポイント以上減少したものは、以下の項目である。（単位：％）

質問事項		令和 ３年度	令和 ４年度	令和３年度と 令和４年度の差
将来の夢や目標を持っていますか	市	71.5	65.6	－5.9
	県	70.3	68.6	－1.7
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	市	74.9	66.4	－8.5
	県	68.5	68.0	－0.5
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	市	70.4	63.3	－7.1
	県	65.0	62.1	－2.9
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【１時間以上勉強している生徒】	市	73.3	66.9	－6.4
	県	73.3	68.5	－4.8
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【１時間以上勉強している生徒】	市	64.8	59.7	－5.1
	県	70.9	64.7	－6.2
今住んでいる地域の行事に参加していますか	市	69.9	50.1	－19.8
	県	52.5	46.8	－5.7
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	市	50.1	40.2	－9.9
	県	46.9	43.4	－3.5
１，２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	市	61.8	55.4	－6.4
	県	61.6	60.9	－0.7
国語の勉強は好きですか	市	60.5	53.9	－6.6
	県	61.0	61.2	0.2
数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	市	55.0	45.6	－9.4
	県	51.8	49.0	－2.8
数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	市	86.1	80.9	－5.2
	県	85.0	82.0	－3.0
解答時間は十分でしたか。【数学】	市	89.1	70.6	－18.5
	県	83.8	72.3	－11.5

- ・「１日１時間以上勉強している」生徒の割合は減少しており、土日に関しては県平均を５ポイント下回っている。
- ・「地域の行事に参加している」生徒の割合は減少しているが、県平均を上回っている。
- ・「国語の勉強は好きですか」の質問では、肯定的な回答をする生徒の割合が県平均を７．３ポイント下回っている。

4 課題の解決に向けた今後の取組について

本年度の全国学力・学習状況調査の結果、課題として考えられる点については、次のとおり解決に向けて取組を進める。

(1) 学力面での課題について

- 小学校については、国語において大きな課題は見られなかった。これは、亀山市独自の統一「小学校国語科確認テスト」を作成し、3年生以上で実施するなど、「亀山市学力向上推進計画【第3版】」における3本の重点課題の取組を行ったことによる一定の効果があったと考えられる。特に「読むこと」「書くこと」については成果がみられていることから、今後「話すこと・聞くこと」についても資質能力の向上を図っていく必要がある。
- 算数においては「割合」「比例」などの「変化と関係」の領域に課題が見られる。「割合」を用いて問題を解決するためには、問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察して数学的に表現・処理することが重要である。そのために例えば、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるよう指導する。また「比例」では、伴って変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見だし、その比例の関係を用いて、未知の数量を求めることができるように指導する。二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求める指導が必要である。
- 理科においては「「生命」を柱とする領域」に課題が見られる。それぞれの気づきを明確にし、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定していく。観察、実験などの結果について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるよう指導が必要である。
- 中学校については、国語においては「話すこと・聞くこと」の内容に課題が見られる。自分の考えを聞き手に分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立ち、どのような工夫が効果的なのか考え、工夫して話すことができるように指導していく。第1学年では、相手の反応を踏まえながら、第2学年では、資料や機器を用いるなど、第3学年では、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、様々な工夫があることを理解し、実践できるよう指導が必要である。
- 数学においては「関数」の領域に課題が見られる。様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させる。その際、問題解決の過程を振り返る場面において、解決の見通しをもつ場面で出された方法の説明として不十分なものを取り上げて吟味し、より洗練された表現に高めていく工夫が考えられる。事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実が必要である。
- 理科においては「「エネルギー」を柱とする領域」に課題が見られる。身に付けた知識と日常生活における経験を関連付け、身近な事象の中に問題を見いだして課題を設定し、科学的に探究する過程を通して、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高める指導をする。

(2) 児童生徒質問紙に見られる課題について

○小学校においては、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童が減少している。地域資源・地域人材を活用し、子どもたちが地域や社会にある課題に関心を持ち、多角的に考えたり話し合ったりする授業を発達段階に応じて年間を通じて計画的に行う必要がある。

○中学校においては、「平日、テレビゲームやスマートフォンの利用時間が1時間以下の生徒」の割合が全国平均より7.0ポイント低かった(亀山市21.6ポイント、全国平均28.6ポイント)。各校においてゲームやメディアに触れない日を設けるなどの取組をしているが、その趣旨を今一度確認し、児童生徒が「ゲームやメディアへの触れすぎによる影響」について理解した上で自発的にゲームやメディアに触れない活動に取り組む必要がある。また、学校だけでなく家庭への協力を呼びかけ、各家庭でのルール(1日の使用時間は〇分まで、夜は寝室に持ち込まない等)を決めて取り組んでいく必要がある。

○小学校、中学校においては、「(各教科)の勉強が好きですか」という質問について肯定的な回答をする児童生徒の割合が全国平均を下回った。(単位：%)

	全国平均との差	亀山市	全国
小学校国語	－ 4.7	54.5	59.2
算数	－ 1.3	61.2	62.5
理科	－ 14.3	65.4	79.7
中学校国語	－ 8.0	53.9	61.9
数学	－ 1.6	56.5	58.1
理科	－ 11.5	54.9	66.4

このことから、まず勉強が好きになるには「分かる」「楽しい」と児童生徒が感じるような授業をしていく必要がある。児童・生徒が勉強することが好きという気持ちを継続して持ち続け、授業に積極的に取り組むためには、工夫を凝らした「主体的・対話的で深い学び」及びアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善のほか、児童・生徒に「楽しい」と感じさせることができる「夢中になる」「未知との出会いがある」という行動観点を組み込んだ授業の計画・実施・評価が必要である。また、「前の学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会が工夫して発表していた」児童生徒が全国平均より低い。ICTを活用して話し合いの様子を個人でふり返ったり、ふり返った内容をグループで共有したりすることを通して、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を取り入れていく必要がある。

○このような様々な課題が見られる中で、今後も教員の授業力向上、授業改善と児童生徒のつまずきの把握、そして、それに対する丁寧な支援を進めていかなければならない。各校では、校長、教頭が校内でリーダーシップを発揮し、各校の実態や課題の具体的な把握、「亀山市学力向上推進計画【第3版】」に基づいた授業改善の取組、家庭と連携した児童生徒の学習習慣の定着、放課後等の補充学習の実施による基礎学力の定着に向けた確実な取組を継続していく必要がある。また、教育委員会として市内の現状を踏まえ、新たな「亀山市学力向上推進計画【第4版】」の策定作業を進めるとともに、県や市の指導主事、教職員指導員等を派遣することにより教員の指導力の向上を図るなどの支援に努めていく。